

2023年10月24日

2023年10～12月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

物価高や人手不足が重石となり 県内産業景気は足踏み






















静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、9月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

現況

- 県内産業の現況（2023年7～9月期）は、『順調』が「民生用電器部品」「二輪車部品」「情報サービス」の3業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「工作機械」「自動車部品」「建設」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の11業種となった。
- 『低調』は「住宅」の1業種で、『好調』および『不調』の業種はなかった。

今後の見通し

- 2023年10～12月期の見通しについては、引き続き『好調』と『不調』の業種はなく、「民生用電器部品」と「二輪車部品」が『順調』から一段階下降して『普通』となる一方、「自動車部品」が『普通』から一段階上昇して『順調』となるため、『順調』が2業種、『普通』が12業種、『低調』は1業種となる見通し。
- コロナ禍からの回復で県内の経済活動は正常化しており、8業種で前年同期以上の売上を見込むものの、物価高やエネルギー価格の高騰が企業収益を圧迫するなど、全体的に停滞感が漂っている。
- 米国の金融引き締めの影響や中国経済の先行きなど海外経済も不透明感が増しているほか、あらゆる業種で人手不足が顕在化するなど県内経済が直面する課題は多く、県内産業景気は足踏み状態にある。

業種	業界天気	
	現況 (7-9月)	見通し (10-12月)
製紙		
食品・飲料		
工作機械		
民生用電器部品		
自動車部品		
二輪車部品		
建設		
住宅		
大型小売店		
自動車販売		
物流		
情報サービス		
人材派遣		
観光・レジャー		
外食		

※本件のお問合せ先 主任研究員 大石 彰男

〈11月の記者発表予告〉下記の調査について記者発表を予定しています

「静岡県版 景気ウォッチャー調査（2023年10月）」
「静岡県内企業 冬のボーナス予想」

物価高や人手不足が重石となり、県内産業景気は足踏み

業界景気の現況（2023年7～9月期）

県内産業の現況（2023年7～9月期）は、『順調』が「民生用電器部品」「二輪車部品」「情報サービス」の3業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「工作機械」「自動車部品」「建設」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の11業種、『低調』が「住宅」の1業種で、『好調』および『不調』の業種はなかった。

業界景気の見通し（2023年10～12月期）

10～12月期の見通しについては、引き続き『好調』と『不調』の業種はなく、「民生用電器部品」と「二輪車部品」が『順調』から一段階下降して『普通』となる一方、「自動車部品」が『普通』から一段階上昇して『順調』となるため、『順調』が2業種、『普通』が12業種、『低調』は1業種となる見通し。コロナ禍からの回復で県内の経済活動は正常化しており、8業種で前年同期以上の売上を見込むものの、物価高やエネルギー価格の高騰が企業収益を圧迫するなど、全体的に停滞感が漂っている。米国の金融引き締めの影響や中国経済の先行きなど海外経済も不透明感が増しているほか、あらゆる業種で人手不足が顕在化するなど県内経済が直面する課題は多く、県内産業景気は足踏み状態にある。






業種ごとにみると、製造業では、本県の主力産業である「自動車部品」が、半導体など調達面の改善により生産が安定してきたことで『普通』から『順調』へ1段階上昇する見込み。一方、家庭用エアコンを中心に買い替え需要が一巡している「民生用電器部品」、上積み材料が少なく高水準だった前年実績には届かない「二輪車部品」の2業種は『順調』から『普通』へ1段階下降する見通しである。また、受注の調整局面が続き高水準だった前年を大きく下回る「工作機械」、価格改定が寄与して増収となるも全般的に需要が弱含む「製紙」、家庭内需要が底堅く売上は前年並みを確保するものの、原燃料高で厳しい収益環境が続く「食品・飲料」は、いずれも『普通』のまま推移する見通し。

非製造業では、官民ともにデジタル化需要が旺盛な「情報サービス」が『順調』を維持。災害復旧工事や民間の設備投資に動きが出てきた「建設」、飲食料品などの値上げで単価が上がり販売額が前年を上回る「大型小売店」、食品関連が堅調に推移し輸送量が前年をやや上回る「物流」、製造業向けが底堅く派遣単価も上昇傾向にある「人材派遣」、全国旅行支援があった前年と比べて宿泊者数の上積みは難しいものの宿泊単価は上昇傾向の「観光・レジャー」、年末に向けて外出機会が増加するも人手不足が足かせになる「外食」は、売上高は前年を上回るものの、前期と変わらず『普通』のまま推移する見通し。また、納車台数のさらなる上積みが見込めず前年並みの販売台数が予想される「自動車販売」も『普通』を維持する。一方、「住宅」は、分譲が堅調に推移するも、物価高などの影響で注文住宅など持家の増加が期待できず、『低調』のまま推移する見込み。

2023年10～12月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業種	業界天気		売上高 (前年同期比伸び率)	主要産業の見通し
	現況 (7-9月)	見通し (10-12月)		
製紙		→ 	→	価格改定が寄与し増収なるも、需要は弱含み
食品・飲料		→ 	→	売上は前年並みを維持するが、厳しい収益環境が続く
工作機械		→ 	↘	高水準だった前年を下回り、受注の調整局面が続く
民生用電器部品		→ 	↘	買い替え需要が一巡し、出荷台数は好調だった前年を下回る
自動車部品		→ 	↗	半導体など調達面の改善続き、国内生産は前年を上回って推移
二輪車部品		→ 	↘	上積み材料少なく、高水準だった前年実績には届かない見通し
建設		→ 	↗	災害復旧工事や民間の設備投資が活発化、需要は堅調
住宅		→ 	→	建売増加で分譲が堅調に推移するも、持家需要は低迷続く
大型小売店		→ 	↗	飲食料品などの値上げで単価上昇、販売額は前年をやや上回る
自動車販売		→ 	→	納車台数のさらなる上積みは見込めず、販売台数は前年並み
物流		→ 	↗	年末にかけて食品関連が堅調に推移、輸送量は前年をやや上回る
情報サービス		→ 	↗	売上高は好調に推移するが、人件費高騰が課題
人材派遣		→ 	↗	製造業向けが底堅く推移、派遣単価の上昇で収益改善
観光・レジャー		→ 	↗	宿泊単価は上昇傾向だが、宿泊者数は伸び悩む見通し
外食		→ 	↗	外出機会の増加で売上高は前年比大幅増も、人手不足が足かせに

表の見方

業界天気				売上高	
	好調		低調	↗	非常に増加(+10%以上)
	順調		不調	↗	増加(+3~+9%)
	普通			→	横ばい(+2~△2%)
				↘	減少(△3~△9%)
				↘	非常に減少(△10%以上)

静岡県内主要産業四半期見通し調査「現況」推移

年次	2020年	2021年				2022年				2023年		
四半期	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ (今回調査)
対象月 (○は調査月)	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9
全業種の平均階級値	1.87	2.47	2.53	2.40	2.60	2.67	2.53	2.80	2.93	2.93	3.00	3.13
好調：5												
順調：4												
普通：3												
低調：2												
不調：1												
業 種 数	好調	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0
	順調	0	2	3	2	1	2	1	2	3	4	3
	普通	3	5	4	4	5	3	3	5	7	8	11
	低調	7	6	6	7	7	9	10	7	5	4	1
	不調	5	2	2	2	1	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(9月調査であれば7~9月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(9月調査であれば10~12月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。
 調査時点…2023年9月上旬
 回答企業…県内主要15業種(182社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、15業種の平均値。

各業種および表の見方

製 紙

価格改定が寄与し増収なるも、需要は弱含み

【7-9月期】家庭紙の生産量は、全体的に弱含みで推移した模様。[現況]は増加したものの、コスト削減など全般に減少し、生産量は前年を下回った。

【10-12月期】家庭紙の生産量は前年と同水準で推移する見込み。販売単価の上昇で売上高は前年を上回るとみられる。段原紙の影響で主力製品の生産量は前年を下回る見通し。白板紙も、物価高で食品向けなどの動きが鈍く、前年をやや下回る見通し。

国内紙・板紙生産量 (前年比)

資料：経済産業省

前年同期比 7-9月期比

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~90%	均衡	適正	上昇	横ばい	0.1~1.0ヵ月

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	非常に需要超過	非常に過少	非常に上昇	非常に上昇	ヵ月
89~80%	需要超過	過少	上昇	上昇	
79~70%	均衡	適正	横ばい	横ばい	
69~60%	供給超過	過多	下降	下降	
59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に下降	非常に下降	

主要業種景況見通し

製紙

価格改定が寄与し増収なるも、需要は弱含み

【現況】

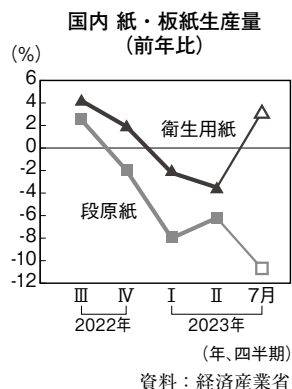


【見通し】



【7-9月期】家庭紙の生産量は、全体的に弱含みで推移した模様。今春の価格改定が寄与し、売上高は増加したものの、コストの高止まりで収益面は厳しい状況が続いた。段原紙は、加工食品向けや電気機器向けなど全般に減少し、生産量は前年を下回った。

【10-12月期】家庭紙の生産量は前年と同水準で推移する見込み。販売単価の上昇で売上高は前年を上回るとみられる。段原紙は、物価上昇による買い控えの影響で主力の食品が低調なほか、産業用も振るわず、生産量は前年を下回る見通し。白板紙も、物価高で食品向けなどの動きが鈍く、前年をやや下回る見通し。



【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~90%	均衡	適正	上昇	横ばい	0.1~1.0ヵ月

食品・飲料/製茶

売上は前年並みを維持するが、厳しい収益環境が続く

【現況】

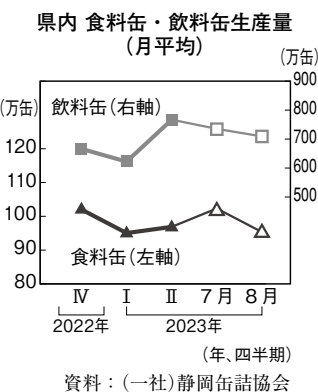


【見通し】



【7-9月期】食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は、パウチ製品を中心に前年を上回った。一方、原燃料価格の上昇で採算は悪化した。飲料缶類の生産量は、ブランドオーナーからの受注が減少し、前年を下回った模様。製茶：製茶問屋の売上高は、前年をやや下回った。

【10-12月期】食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は、家庭内需要が底堅く、前年並みで推移する見通し。原燃料高で厳しい収益環境は続く模様。飲料缶類の生産量は、前年を下回る見通し。ブランドオーナーからの受注が弱含みで推移すると予想される。製茶：製茶問屋の売上高は、リーフ茶需要の低迷で前年を下回る見通し。



【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	上昇	0.1~1.0ヵ月

工作機械

高水準だった前年を下回り、受注の調整局面が続く

【現況】

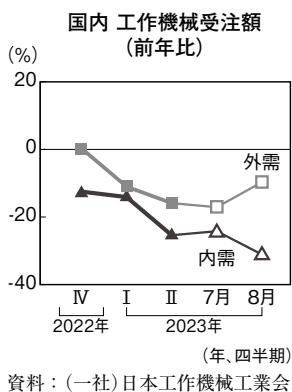


【見通し】



【7-9月期】全国および県内の受注額は、高水準だった前年を大きく下回った。全国は8ヵ月連続で前年割れとなったが、省人化などのための設備需要は底堅く、受注総額は一定の水準を維持した。県内は全国より勢いがなく、受注の確保に苦戦するメーカーが多くみられた。

【10-12月期】全国および県内の受注額は、引き続き高水準だった前年を大きく下回る見通し。メインの外需は、中国経済の先行き不透明感が強く、米国の金融引き締め長期化も懸念されることから、設備投資に慎重な姿勢が続くとみられる。内需も様子見が続くそう、受注総額は底堅さを保つが好転は見込みがたい。



【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

↘	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	均衡	適正	上昇	横ばい	1.0~12.0ヵ月

民生用電器部品

買い替え需要が一巡し、出荷台数は好調だった前年を下回る

【現況】



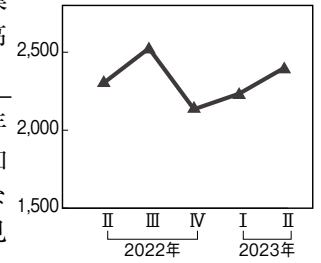
【見通し】



【7-9月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年を下回って推移した。8月以降に猛暑日が続く販売は伸長したものの、好調だった前年実績には届かなかった模様。冷蔵庫の出荷台数は、買い替え需要の一巡や物価高で購買意欲が低下している影響で、前年を下回った。

【10-12月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年を下回る見通し。買い替え需要が一巡していることに加え、今夏の販売が強含みだったことから、前年のような旺盛な需要は見込み難しく、出荷台数は前年を割り込む見込み。冷蔵庫の出荷台数は、好調だった前年を下回るとみられ、コロナ前の水準で推移する見通し。

国内 家庭用電気機器出荷額
(月平均)
(億円)



(年、四半期)
資料：経済産業省

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	供給超過	過多	上昇	上昇	1.0~3.0ヵ月

自動車部品

半導体など調達面の改善続き、国内生産は前年を上回って推移

【現況】



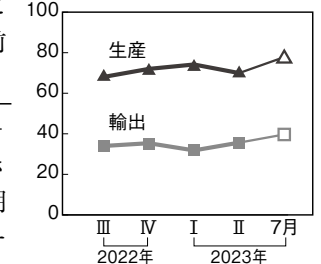
【見通し】



【7-9月期】全国の自動車生産台数は、半導体など部品不足による影響の緩和傾向が続き、前年実績を+1割弱上回った。国内販売が堅調だったほか、円安が進んだことで輸出も伸長した。県内部品メーカーの生産量は、前年を上回って推移した模様。

【10-12月期】全国の自動車生産台数は、前年実績を+5%程度上回る見通し。半導体の調達については、引き続き回復傾向が続く見込みで、比較的安定した生産が期待される。県内部品メーカーの生産量は、系列メーカーによってやや濃淡があるものの、全体的には前年を上回って推移する見通し。

国内 自動車生産・輸出台数
(月平均)
(万台)



(年、四半期)
資料：(一社)日本自動車工業会

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	需要超過	適正	上昇	上昇	0.5~2.0ヵ月

二輪車部品

上積み材料少なく、高水準だった前年実績には届かない見通し

【現況】



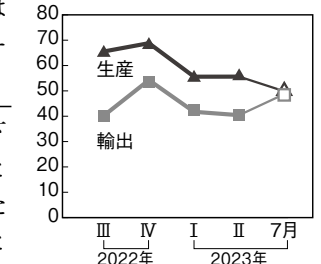
【見通し】



【7-9月期】全国の完成車生産台数は、前年を下回って推移した。コロナ禍に生じたアウトドアでの大型車需要が下支え要因となっているが、好調だった前年実績には達しなかったとみられる。これに伴い、県内部品メーカーの生産量も前年を下回った模様。

【10-12月期】全国の完成車生産台数は、前年をやや下回って推移する見通し。前年はコロナ禍の旺盛な需要と半導体不足の緩和による積極的な生産で高水準となったが、今年は上積み材料が少なく前年実績には届かないとみられる。このような状況下、県内部品メーカーの生産量も、前年を割り込む見通し。

国内 二輪車生産・輸出台数
(月平均)
(千台)



(年、四半期)
資料：(一社)日本自動車工業会

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	均衡	適正	上昇	横ばい	1.0~2.0ヵ月

建設

災害復旧工事や民間の設備投資が活発化、需要は堅調

【現況】

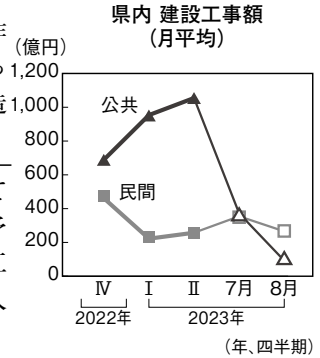


【見通し】



【7-9月期】 県内の公共工事契約高は、国関係でパイパス立体化の大規模工事があったほか、県・市町関係で昨年の台風被害の復旧工事が続き、前年の水準を上回った。民間の工事費予定額は、設備投資の回復に伴い製造業や飲食店、宿泊業などが増加し、前年を上回った。

【10-12月期】 県内の公共工事契約高は、前年を上回って推移する見通し。引き続き台風被害の復旧工事が続く予定で、県・市町関係が堅調に推移する見通し。民間の工事費予定額は、コロナ禍で見送っていた新規設備の導入や老朽化した施設の改修の動きが活発化するとみられ、前年を上回って推移する見通し。



資料：国土交通省、建通新聞社

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	完成工事に在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
90%以上	均衡	適正	上昇	上昇	4.0~12.0ヵ月

住宅

建売増加で分譲が堅調に推移するも、持家需要は低迷続く

【現況】

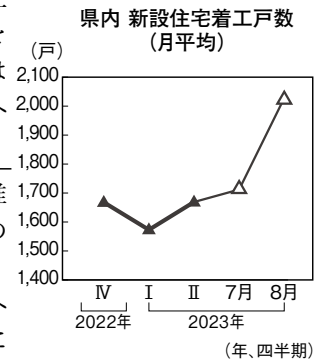


【見通し】



【7-9月期】 県内の新設住宅着工戸数は、前年実績を上回った模様。利用関係別では、持家の着工戸数は前年を下回ったが、西部で複数のマンション着工があり分譲は前年を上回った。住宅価格の上昇や物価高による家計への圧迫感から、住宅購入意欲は低迷が続いた。

【10-12月期】 県内の新設住宅着工戸数は、前年並みで推移する見通し。長期化する物価上昇や一部補助金制度の終了など、顧客のマインドを上向かせる材料は乏しい。大手ハウスメーカーを中心に、注文住宅から建売販売へシフトする動きがみられ、利用関係別では分譲が堅調に推移する見通しだが、持家は減少すると予想される。



資料：国土交通省

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	完成工事に在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
79~70%	供給超過	過多	上昇	上昇	1.0~6.0ヵ月

大型小売店

飲食料品などの値上げで単価上昇、販売額は前年をやや上回る

【現況】

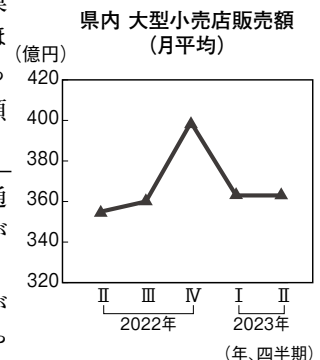


【見通し】



【7-9月期】 県内の総販売額は前年をやや上回った模様。百貨店は、コロナ規制の撤廃で来客数が増加したほか、猛暑で夏物衣料の販売が伸長し、前年をやや上回った。総合スーパーは、主力の飲食料品の単価上昇で販売額が押し上げられたほか、飲料や氷菓の販売が好調だった。

【10-12月期】 県内の総販売額は前年をやや上回る見通し。百貨店は、帰省客の増加でおせちなどの需要拡大が見込まれ、前年をやや上回る見通し。総合スーパーは、飲食料品の値上げを受けて、引き続き販売単価の上昇が見込まれ、前年をやや上回る見通し。一方、仕入価格や人件費の上昇で、店舗運営費の高騰が懸念される。



資料：経済産業省

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
-	均衡	-	上昇	上昇	-

自動車販売

納車台数のさらなる上積みは見込めず、販売台数は前年並み

【現況】

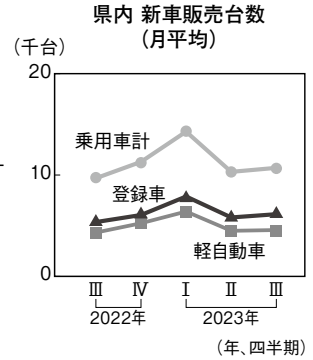


【見通し】



【7-9月期】県内の新車販売台数は、前年比+10.6%増加した。半導体不足による車両の供給難は徐々に解消し、改善傾向が続いた。しかし、現在の納車待ちを解消させるような増産体制にはなっておらず、依然として品薄状態が続いた。

【10-12月期】県内の新車販売台数は、前年並みで推移する見通し。店頭での商談など引合いは底堅いものの、部品の供給制約から納車台数が大きく増える可能性は低く、さらなる上積みは見込みにくい。中古車専門店の不祥事を受けて、新車販売店の厳しい品質基準をクリアした“認定中古車”の注目度が高まりそう。



資料：(一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部
(一社)全国軽自動車協会連合会静岡事務所

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
-	需要超過	過少	上昇	上昇	3.0~6.0ヵ月

物流

年末にかけて食品関連が堅調に推移、輸送量は前年をやや上回る

【現況】

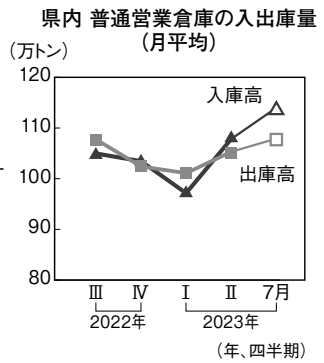


【見通し】



【7-9月期】県内のトラック輸送量は、前年をやや上回る水準で推移したとみられる。輸送用機器や食料品などが堅調に推移した模様。普通倉庫の入出庫高は、電気機械が底堅く推移した一方、紙・パルプや飲料の荷動きが鈍く、全体では前年並みの水準となったとみられる。

【10-12月期】県内のトラック輸送量は、前年をやや上回る水準で推移する見通し。輸送用機器のほか、食品、飲料などの消費関連が底堅く推移すると予想される。普通倉庫の入出庫高は、年末にかけて食品関連で安定した荷動きが見込まれることから、前年並みの水準は確保できるとみられる。



資料：静岡県倉庫協会

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	燃料価格	サービス単価	受注残
89~80%	均衡	-	上昇	横ばい	-

情報サービス

売上高は好調に推移するが、人件費高騰が課題

【現況】

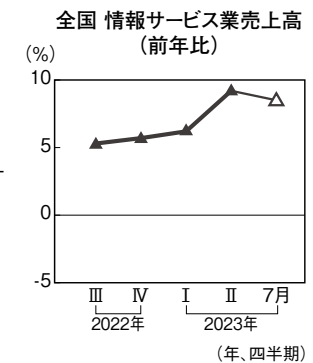


【見通し】



【7-9月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移した模様。あらゆる産業でIT投資意欲は旺盛で、主力のソフトウェア開発を中心に好調に推移した。ただし、県内事業者は、首都圏と比較してSE確保に苦戦しており、全国ほどの伸びはみられなかった。

【10-12月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移する見通し。官民のデジタル化需要に陰りはなく、堅調な受注環境が続く見込み。ただし、賃上げや外注先の単価高騰など、収益が圧迫される県内中小事業者は少なくない。物価高等で顧客企業の収益環境も厳しい中で、サービス価格の引上げは難航が予想される。



資料：経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス価格	受注残
90%以上	需要超過	-	-	上昇	1.0~5.0ヵ月

人材派遣

製造業向けが底堅く推移、派遣単価の上昇で収益改善

【現況】



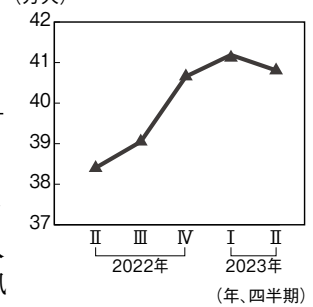
【見通し】



【7-9月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をわずかに上回った模様。観光関連は国内旅行客だけでなくインバウンドが増加していることに加え、各種イベントも再開し、接客やサービスなど幅広く需要が増加した。自治体向けはコロナ関連需要の減少で縮小した。

【10-12月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をやや上回る見通し。製造業は、全般的に底堅く推移する見通し。観光関連も本格的な行楽シーズンを迎え需要増が期待できる。派遣単価は、IT関連を筆頭に構造的に人手不足が続いていることに加え、最低賃金引上げも追い風に働いて上昇しており、改善される見通し。

全国 派遣社員の実稼働者数 (月平均)



資料：(一社)日本人材派遣協会

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	派遣原価	派遣単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	上昇	—

観光・レジャー

宿泊単価は上昇傾向だが、宿泊者数は伸び悩む見通し

【現況】



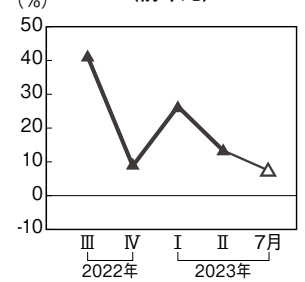
【見通し】



【7-9月期】県内主要旅館の総売上高は、前年をやや上回った模様。新型コロナウイルスの5類移行後、初めての夏休みを迎え7~8月は宿泊需要が高まったが、9月の平日稼働が伸び悩んだ。海水浴など屋外レジャーは、猛暑日が続き大幅な回復には至らなかった模様。

【10-12月期】県内主要旅館の売上高は、前年水準をやや上回る見通し。材料費や光熱費などコスト高の影響で宿泊料金を引き上げる動きが続く一方で、宿泊者数については、全国旅行支援があった前年からの上積みは難しいとみられる。暑さが和らぎ、コロナ禍で落ち込んだシニア層の平日のレジャー需要回復に期待がかかる。

県内 宿泊者数 (前年比)



資料：観光庁

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス単価	受注残
79~70%	均衡	—	上昇	上昇	—

外食

外出機会の増加で売上高は前年比大幅増も、人手不足が足かせに

【現況】



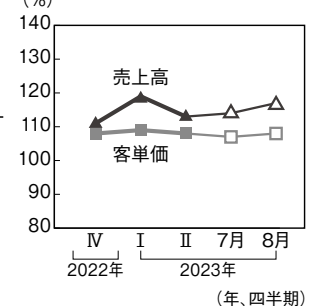
【見通し】



【7-9月期】県内主要外食店の売上高は、低水準だった前年を+10%超上回った。経済活動の正常化に加え、イベント再開で外出機会が増加し個人客を中心に来客数、売上が回復した。ただし、人手不足が深刻化しており、業績回復の足かせとなった。

【10-12月期】県内主要外食店の売上高は、前年を大幅に上回る見通し。年末に向けて外出機会が増加し、来客数、売上の増加が期待される。ただし、人手不足は解消できず、業績回復の足かせになる。居酒屋では個人客を中心に需要が回復する一方、法人需要は伸び悩み、売上はコロナ前の8割程度にとどまる模様。

全国 外食売上高・客単価 (前年比)



資料：(一社)日本フードサービス協会

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	販売単価	受注残
—	均衡	—	上昇	上昇	—

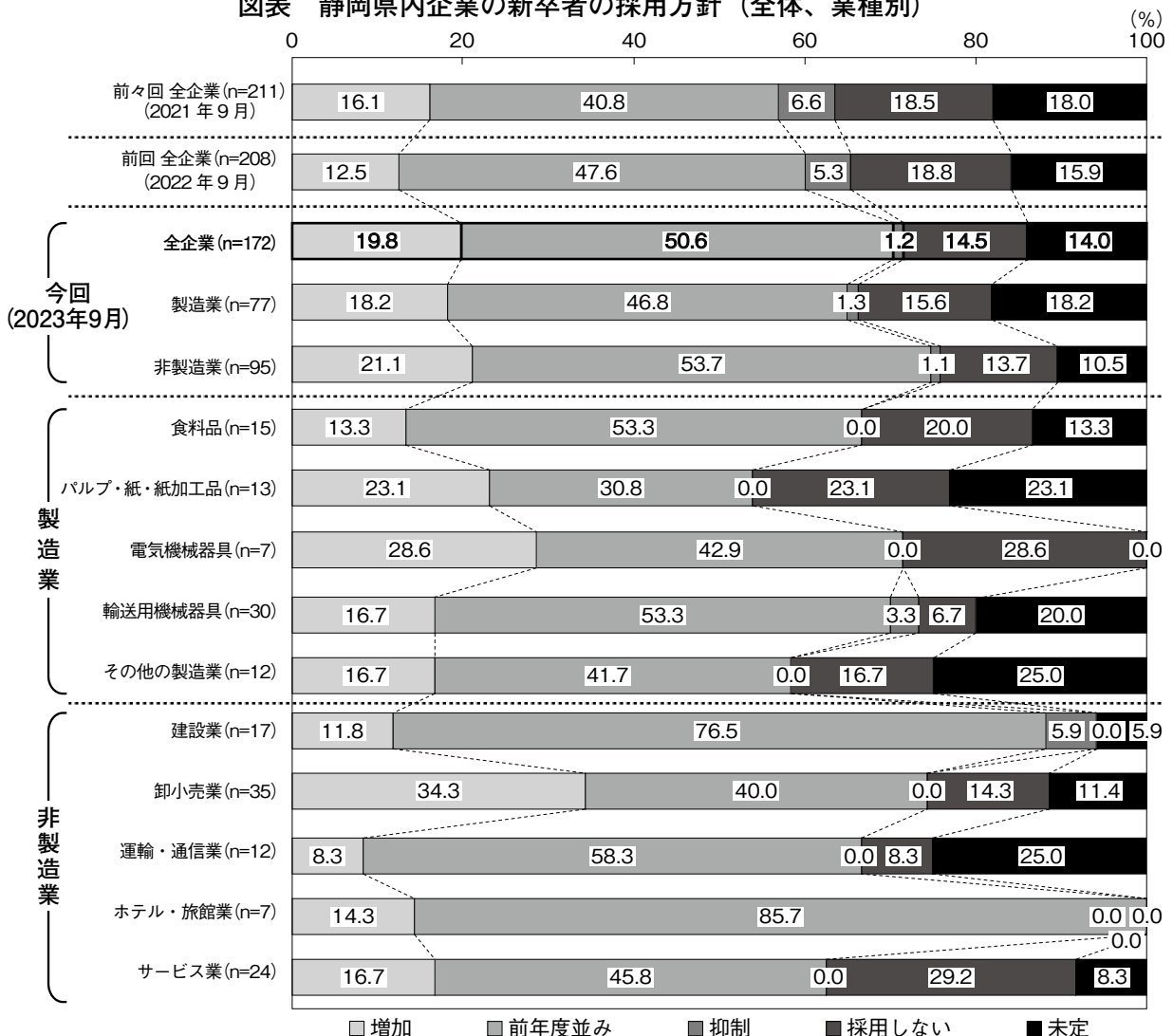
特別調査 24年度の新卒者の採用方針

人手不足が深刻化する中、新卒者の採用意欲は堅調に推移

県内企業に2024年度の新卒者の採用方針を尋ねたところ、22年度より「増加」させる企業は19.8%と前年（12.5%）を+7.3ポイント上回り、「前年度並み」も50.6%と、前年（47.6%）比+3.0ポイント上昇した（図表）。一方、「抑制」（1.2%）や「採用しない」（14.5%）、「未定」（14.0%）との回答はいずれも前年比減少しており、人手不足が叫ばれる中、新卒者の採用意欲は堅調な様子が見られる。

業種別にみると、製造業では“電気機械器具”や“パルプ・紙・紙加工品”で「増加」回答が2割を超えた一方で、「採用しない」との回答も2割以上あり、同業種内でもややバラつきがみられる。非製造業では、“卸小売業”で「増加」との回答が3割を超えたほか、人手不足が深刻な“ホテル・旅館業”や“建設業”でも採用意欲が高い様子。一方、“サービス業”では「採用しない」が3割近くに達するなど業種により温度差が感じられる。

図表 静岡県内企業の新卒者の採用方針（全体、業種別）



調査要領：調査時点2023年9月、調査対象企業585社、回答社数172社、有効回答率29.4%